



就職か進学か、迷っている人も多いでしょう。どのように進路を決めたのか、先輩のアドバイスに耳を傾けてみませんか。今回は大学院進学の魅力について、大学院医学系研究科統合先進医学専攻に在籍中の本定千知さんにお話を聞きました。

OB・OGインタビュー

大学院医学系研究科
統合先進医学専攻先端応用医学コース博士課程4年

本定 千知 さん

(2010年医学部医学科卒業)

キャリアに合わせていつでも入学 修了後の診療の幅を広げる

2010年3月に福井大学医学部を卒業、同年4月から同附属病院で勤務、2年間の初期研修を経て、2012年4月から後期研修医として内科学(3)の呼吸器内科に入りました。大学院博士課程に入ったのは後期研修医2年目でした。

医学科の学びは6年間です。そのため、通常の4年制と比べると、大学卒業後のライフプランを考える年齢が少し上がります。仕事と研究の両立、結婚などの家庭生活、女性の場合はさらに出産や育児との両立も求められ、妊娠や育児のタイミングを考慮した上で大学院に進むケースが少なくありません。私自身、4年前に大学院に進んだ後、2人の子どもを妊娠・出産し、現在子育て中です。

臨床の現場では、幼い子どもがいると時間の制約があったり、妊娠中では携わることができない医療業務があったりして、不都合が生じる場合があります。さらに育休を長くとると、どうしても医療スキルが落ち、「置いていかれた感」を覚えてしまうのも事実です。しかし大学院なら育休を取りながら学べ、同時に基礎実験を行うことで研究スキルが身につきます。医師としての技量はキープしつつ、今後の診療の幅を広げるメリットがあるのです。とはいえ、仕事と研究、さらに家庭や育児を両立するのは決して楽なことではありません。だからこそ、やり遂げた時の達成感はひとしおで、頑張った証として自分のキャリアに自信をもたらしてくれるでしょう。

大学院修了後、研究によって得た多角的な視野から、これまでとは違った視点で医療に携われるのではないかと考えています。医学部の大学院はキャリアに合わせていつでも入学することができ、結婚・妊娠・出産を考えている女性には特におすすめです。



PROFILE

ほんじょう・ちさと

2010年福井大学医学部を卒業後、同年4月から初期研修医として同附属病院で勤務。2012年4月から呼吸器内科に勤務。福井市出身。

HOT NEWS

結核の免疫についての研究成果が海外の専門誌に掲載されました。



研究成果について、定 清直教授と記者発表(今年4月)

1日の流れ

8:30	病院で担当患者(平均5人)を回診
10:00	研究
12:00	昼食
13:00	病院で気管支鏡検査
14:00	研究
16:00	病院で担当患者を回診
17:00~	研究
18:00	帰宅